

知連抄并梵燈連評

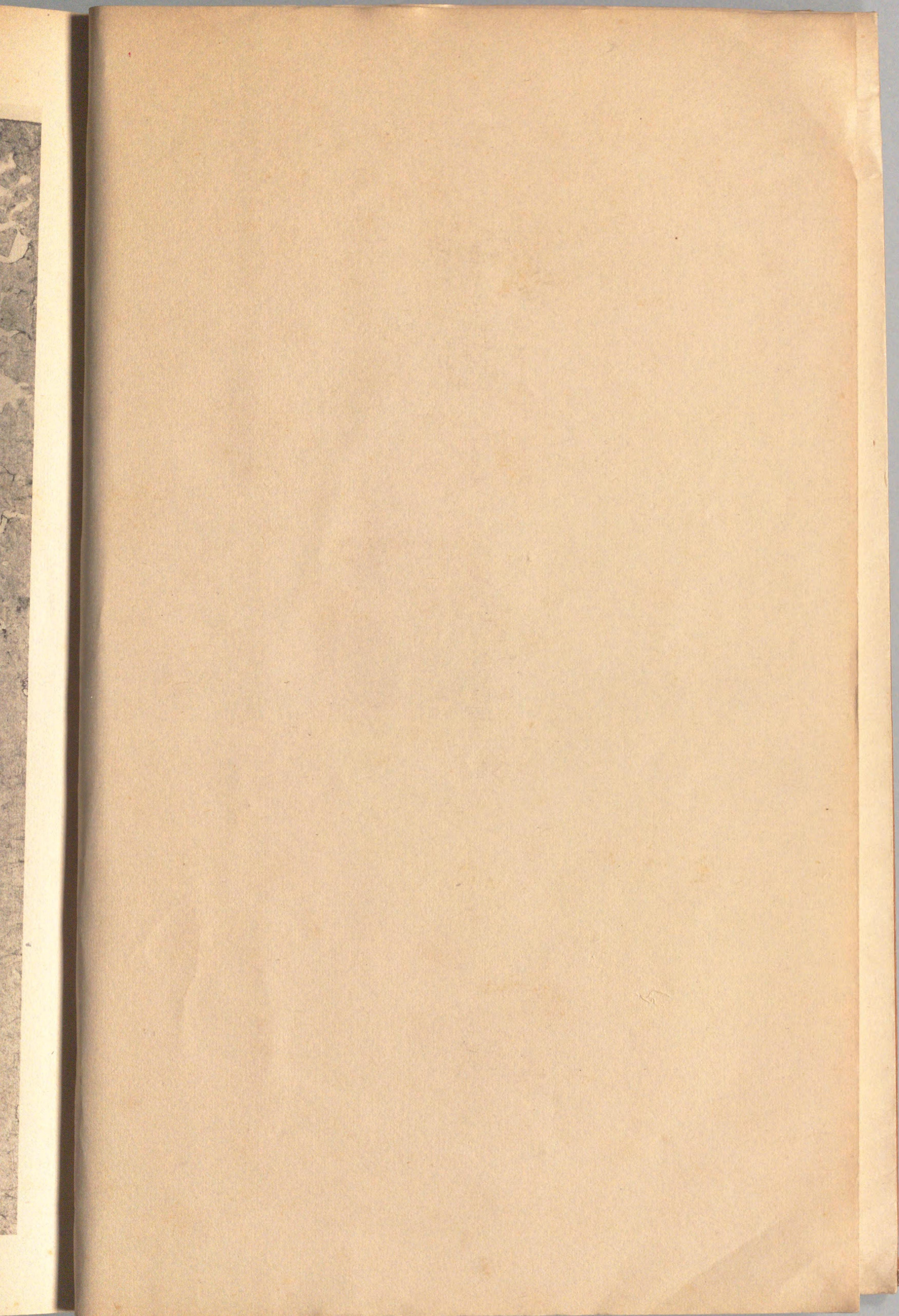
9112
N872t2
②



216543

911.2 N872t2





知通抄并梵燈集評

四
庫
全
書



加藤の柳とありは
実合と細付も也
心也

一周の柳の葉は
もたわしや
ばしけしん

おらあはし
のせの務
松原の
のたの
のたの

うねり人汽のお糸松の雪
燿々たる白の目や袖りく
の身もくもくもれつれきま
思ふ月く人れきあみく
八つと月くしらのくさく
若れし中くよとくさく
そきくてい新交取ありとせんわくいせまのち
あゝのそを國我れ懐かしくし
んくんのいんしあまりしちんていんちやま
の吉神と魚の火略周にん地とま

んぐの青袴と魚火略周のうん地と葉

やされいひ十ヶ年間の道平は後あり
院とていつとて昔道平と思は時周は
月神也

は法の道平の兵人と威人上よむをいふ

道とて下にいふ文も我があまをよむ道平

を岡とてあや道平といふも好ぬもら歌の

百い千いきりら道平にいくは侍れ二三句を

しありんするらあつていふもや能くさるる

一連評の三程あり上中下也先上采の道平

未人の思案下ねは始くわらへ

凡能く新く詞曲言より面白く付

ある上手し一座は二句三句のあり

とせらるる句をなせ一手田舎し

小よぶとえん句の得しと思お

雲間くしくし又やある

け句花よ昔句は安あり

二中承の道とす八人珠を引く

花月亭の書あり中承と一と有

よすらむ中承の道とす

花月...の中...の...
よ...の中...の...
...
...

一 下...の...
...
...

少...
...
...

多...
...
...

未...
...
...

口...
...
...

横...
...
...

一 字...
...
...

目...
...
...

古く以来の代集の肉いから 社を古せん叶

も人但初心のんくいさのしりまをなら金寄

念を寺好深氏万家おれ事念一座り

三友ののい者好事今の時きしりいん録

あしし面白南座しゆりの傳道

一 今時のよりすし上の区み字をて下しんかむ

そしちすりやさるけしお下さるれくもあ

ぬしちすり引しつをてし又しゆり前の区

ぬまのしんしらの合しりいみさ又下の句

ぬまのしんしらの合しりいみさ又下の句

神の心は... 存中... 幽玄...

一 連評の心静りていふ叶又おもひに...

叶やいふ心静りていふおもひに...

能く見つらむ心静りていふおもひに...

るの句枝の安と何て麻とる... 執業

あつらひ二三人の可く入花を多くとや...

くさくさあつらひよる... 本中三平の上のハ

下よ吉より物とらん... 言一語一語

する也但物の心の何い節... 平一しりり

しんてんりり... 平一しりり... 始りり

トハ秋... 色く... すす... 建勢の... ね... ね... ね...
の... ね... ね... ね... ね... ね... ね... ね... ね...
飛... ね... ね... ね... ね... ね... ね... ね... ね...
あ... ね... ね... ね... ね... ね... ね... ね... ね...
一 院... ね... ね... ね... ね... ね... ね... ね... ね...
... ね... ね... ね... ね... ね... ね... ね... ね...
用... ね... ね... ね... ね... ね... ね... ね... ね...
... ね... ね... ね... ね... ね... ね... ね... ね...
... ね... ね... ね... ね... ね... ね... ね... ね...
... ね... ね... ね... ね... ね... ね... ね... ね...

家命の...
...
...

じまの田...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

一陰木の下下の空に月星の光を射也

斜にまゝ行くと陰にまゝの斜に射はむ

忍持森列みごの葉み字のみはりて

鳴洞油の落よ涙已上

一せんせんせんせんはなのてよありあへん

但中せんからと一句の体下は

一於塙為恨決慮の山望入江執子奥也

一 昔山 ちうととてけり

一 六 ぐくぐくやまはむ 山打谷のまゝに せ

一 符 恋 列 又 羨 秘 元 之 付

一 一 恋 連 懐 の 詞 意 和 一 連 懐 恋 の 詞 意 付

一 符 列 ぐくと云ふ 羨 符 又 符 秘 反 付

一 懐 恋 中 の 内 意 也 一 又 秘 意 也

一 山 踏 ぐくぐく 又 山 踏 ぐくぐく 又 山 踏 ぐくぐく

一 ざりかりかたれんそとよ好銀齋（さし）

のそよひ

一 粘の宿一初と幸付（さし）又喜れ宿（さし）教小付

一 又喜まきまさと寄 又出れお舟浦（さし）核（さし）

一 かかとしらぬとさ句（さし）しと幸付

一 天の舟と結く（さし）氷水色（さし） 又月の許（さし）ハ氷色（さし）

一 粘の天れら（さし）わま（さし） 又棟取（さし）夜（さし）なり

一 何所し（さし）か（さし）也 又海（さし）舟（さし）つ（さし）あ（さし）何と

一 氷の砂（さし）く（さし）く（さし）つ（さし）け（さし） 又喜れ砂（さし）く（さし）く（さし）つ（さし）き（さし）

一 草一本と一句一人のあまの三句と一物

一 深山梯と云句よ常如壽合平一物

一 月くく相事くくす又忍の富士と時知す音

一 じらむよあ世とつげと丸くくさわまらげと

一 身と云句よ路言と付く又めらるるとつげと

一 吉野と云句よりあし付く松満と松若つげと

一 冬の時ぬ山とわ付

一 月と云句よはと云句凡と付又杖杖と心まと付

一 秋の田に植也。まきふりあひとらん。木植也。

一 夏に花月まき植也。ん。せりん。あな。か。

一 香山に植也。十思くわ里植也。一かわに植也。

一 秋のまき也。一香し油池生也。池まき。或本一まき也。生也。わ。ら。也。

一 本葉衣に植也。ん。あ。な。一ひまの衣に植也。か。

一 苔に池植也。ま。ま。一深山右所也。山あ。ら。と。

一 斗月松石也。池植也。十在の山石也。池植也。

一 霞の洞に池まき也。一岩の穴に池生也。葉也。

一 葦の葉 池まき 石取也
一 葦の葉 池まき 石取也

一 萩の葉 同野池 萩まき 石取也
一 萩の葉 同野池 萩まき 石取也

一 萩の葉 池まき 石取也
一 萩の葉 池まき 石取也

一 萩の葉 池まき 石取也
一 萩の葉 池まき 石取也

一 萩の葉 池まき 石取也
一 萩の葉 池まき 石取也

一 萩の葉 池まき 石取也
一 萩の葉 池まき 石取也

一 萩の葉 池まき 石取也
一 萩の葉 池まき 石取也

一 萩の葉 池まき 石取也
一 萩の葉 池まき 石取也

一 萩の葉 池まき 石取也
一 萩の葉 池まき 石取也

一 萩の葉 池まき 石取也
一 萩の葉 池まき 石取也

一 萩の葉 池まき 石取也
一 萩の葉 池まき 石取也

一 萩の葉 池まき 石取也
一 萩の葉 池まき 石取也

一 萩の葉 池まき 石取也
一 萩の葉 池まき 石取也

行とてさうせん又強ふんじりおの病也
い運し同事也乞んじりおの病也

二 同詞の病也事

此陰月也新れり病也

二 行句の病也事

月とていこわ花の曇り也

月の疾し花の曇り也

は三勺の酒を二杯に病を起す
面白月をいふ事と云ふは是と云ふは
行是の病と云ふ今三勺をいふは病と云ふ

一 落勺の病は事

タラ者ハ列トビと月ハ〜

是又花面白月何ぞ弁と

ソトモ云花枯月を用(セム)ハハ月尊

衆の心ハ〜地ハ〜也ハ〜落題の事ハ

多し一月のたのむ花とかなの月と花と
賞翫せむし一と次ぎと事と活題といふ也
評ハ八病を思ふもたは平下八病也

二 此歌の八韻と聲と韻相通と云事あり

乞ハ平下二歌にていふもあせ歌ハ乞とい

大なる秘事と云也 先ハ平下此類ハ詞のぬら

なとせしと云んしを聲のすくくと下る枯に云

又韻と云ふと云や 又又韻相通と云ハ詞と

平一は事一の終の女おしり押の中一し
は事一と一も一也一少一は事一の白くお通
の白く一す一や一は一取一先一事一の
姿と連評し一

為の言の古井一老一の
雲のまゝ少一は一のまゝ一

乞く一音一は一お一も一は一ち一ん
乞く一音一は一お一も一は一ち一ん
あらん一は一又一お通一の事一

お通一の事一
お通一の事一

奥にや 月海をん

あなや又白糸の心

は三石のお通 三石の心音量

くすたり但アイウツノ六行もはよ

そくしり韻ね通の句や又と河のしんを

知すりぬく心もあし気味やいもをせ

心辨のり

秘人やあなあやいりらん

あはははあなあなみん花畑

いよいよ...
...
...

心身も...
...
...

心身も...
...
...

心身も...
...
...

いよいよ又讀お通の...
...
...

お通...
...
...

秘事...
...
...

と...
...
...

と...
...
...

と...
...
...

救済の又の

二 南世のよきすれ凡そと平んんん

^侍 泊る衆の因れ母女少わは

誇の陰しり音えあふ心 救済法

^坂 洋うしじねの衆女やうれな

ぬーさよし者れ一村 用は師

は三つこの子何して向白き深きりの聲押も

月也んしゆるに南庭うらむく一首つる

何れも
なほ
て
て
て

思開ふ
に
は
里
の
果
の
産
ん

て
と
と
と
と
と

新無し
の
越
の
文
新

す
の
く
ん
平
下
は
ん
と
し
の
す
は
の
す
は

の
く
ん
と
し
の
く
ん
と
し
の
く
ん
と
し

道
は
は
ら
の
ゆ
き
と
あ
ら
は
し
の
梅

無
教
の
方
は
地
の
い
は
ら
は
し
の
地

一
の
甘
蜜
の
事
は
り

柞は御抄の末に去る意に安ん身の七二条大同依南
開白版御下皇皇御和平肝要被き々々周に
九州下向河寬初斗由皇末河中下
今雨符之但上洛之故被返於御抄の終
失入其後皇外見人秘事也本也之皇實之
院御聖護院竹園御教書の間嘉應元年
十月若近凡轉は出抄二通被書於也也

南及奥候口侍亭了也之六物

大同御判

^本于时永身拾年林鐘丁六以慈尊院_本

書了也
筆七心判

寶極才卷南品上旬之此志了也

了不丁有外見此真也

梵灯近年... 付... 連乎

仙洞... 御院... 被... 也

了... 被... 也... 同... 院... 二... 句... 以

德... 永... 世... 三... 年... 二... 月... 日

一毒左

風とさるとみかきむねとくらん

右

あふらふのあまのたね

あふらふのあまのたね

あふらふのあまのたね

取借風情

一番右

舟をさるる舟をさるる舟をさるる

野より舟をさるる舟をさるる

右

竹ありて舟をさるる舟をさるる

おきし舟をさるる舟をさるる

三妻左勝

おる 谷をたしむる雲物
長 川をたしむる月をたしむる

右 松ありきの福

月をたしむる月をたしむる

四書片

右 月をたしむる月をたしむる

想 月をたしむる月をたしむる

右

のりば友の
文いけい海乃
くらく寝る

五番右

雲中月もさし
お松の姿

木の葉あり
いさし書い
何ゆり

右

各水とて
あつても
かゝる

と云の程の
年も故
ちね

京まゝ右

龍らまきいぶら

隣しとみくらの竹の音とれ

ゆりんえん黒字深の

馬のりやんやん

七番右

輝もみくしとら

雲士とる雷の音とる月風

九番右

かへんさくせん

耳又別

右

かへんさくせん

かへんさくせん

十番右

かへんさくせん

右

神

機

十番左

一

物

あ

岩

あまののしん

物まのゆ

一も

十番

機

神

秋河はくはあかひとてかたし知く

と名のおはるる面白はよとてあか

しはゆき但右とてあはし

しはゆき但右とてあはし

十二歳

あまよしはらとてあはし

奥子のおやとてあはし

右

世々也
やーまーな
かーるーの
あーら

あーら
あーら
あーら
あーら
あーら

十二書左

あーら
あーら
あーら
あーら
あーら

あーら
あーら
あーら
あーら
あーら

日本古
あーら
あーら
あーら
あーら

あーら
あーら
あーら
あーら
あーら

本
家地三日南谷八百里半

山皆瘠瘠才四五及下甸此

去去乃乃也
中又下

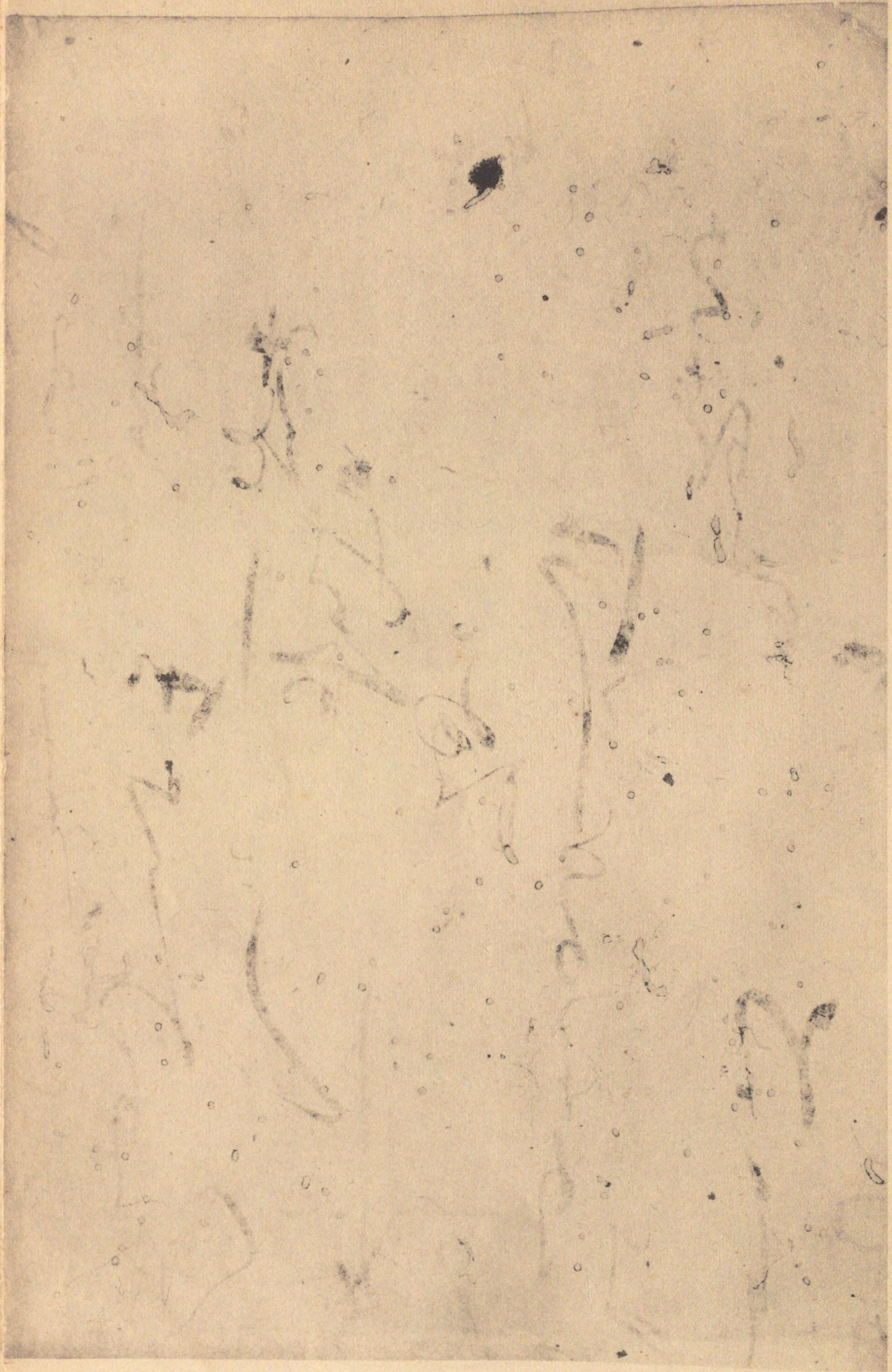
去改
也
也

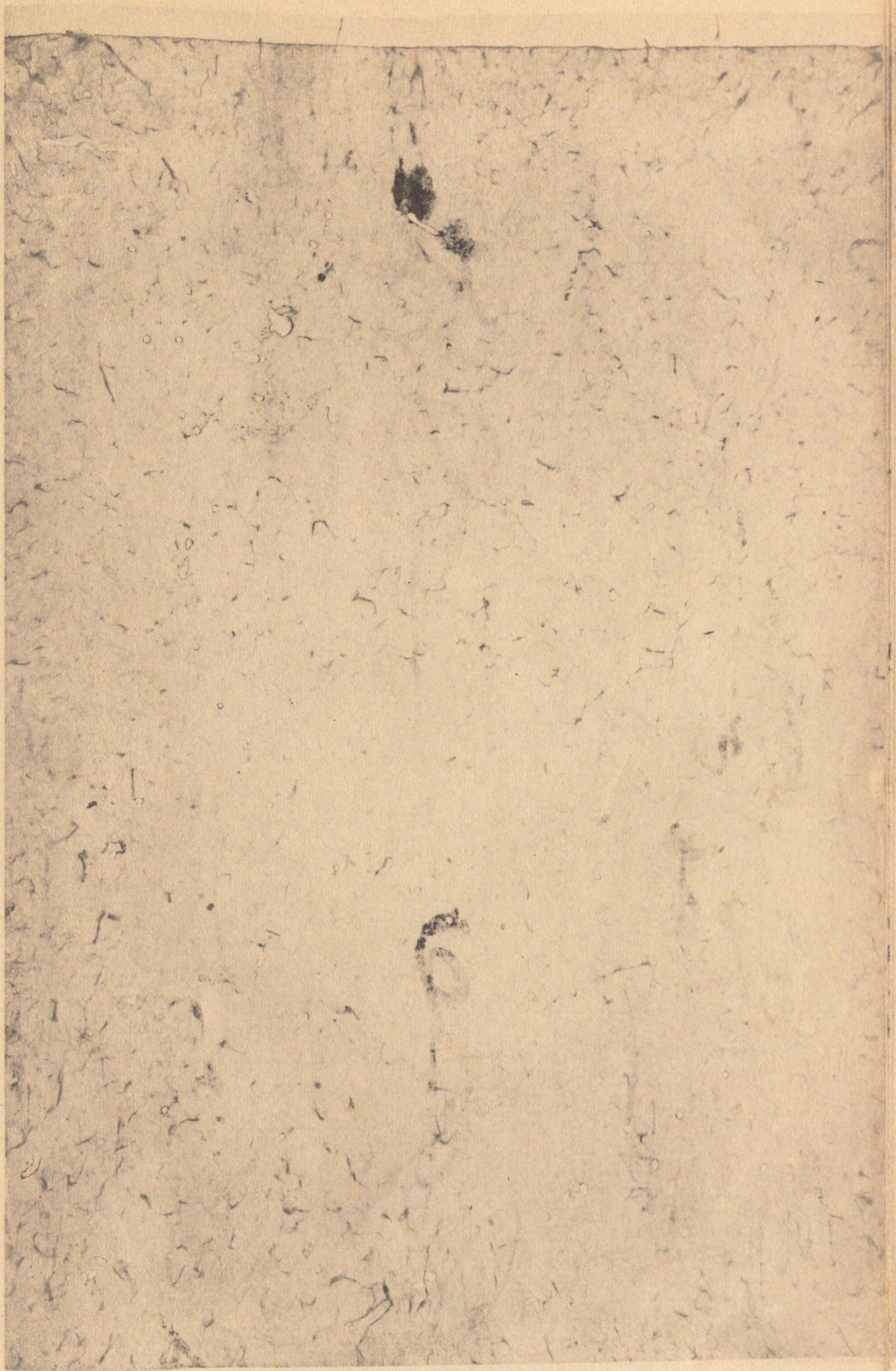
定賢
勿忘
此意

大概
加後
百
也



1000





宮内省圖書寮御藏知連抄并梵灯連誦解説

知連抄は二條良基が應安七年（紀元二〇三四年）關白（良基の子師良か）の所望によりて作れる連歌の書にして、連歌の風躰を論じ法式を示し病を説き、五韻連聲五韻相通等の秘説をも開陳したるものなり。圖書寮御藏の古鈔本は、終に朝山梵灯庵の連歌を十五番につがひて仙洞の御點を請ひ奉りたるものを併せ寫せるものにして、縦九寸八分餘、横六寸九分餘の袋綴の大冊子なり。前後に黒色の紙表紙を附し、前の表紙の左端には、黒き枠を印したる白紙の題簽に「知連抄并梵灯連誦」と墨書せり。紙數は全部二十五張あり。料紙はすべて書狀の裏を用ゐたるが、今は裏打を施し、その裏打の紙、上方に於て原紙よりは一分五厘乃至二分ばかり長くあらはれたり。されば原紙の高さは本の高さよりも低く九寸六分乃至九寸六分五厘なり。（今の表紙及び題簽は、この裏打と共に加へられたるものなるべく、共に新しく見ゆ）第一張は、表面中央に「知連抄并梵灯連誦」と墨書し、裏面には文字なし。表面の汚損せるより觀れば、この一張はもとの表紙とおぼし。第二張最初に知連抄とありて次行より本文に入り、第十六張表面にて終り、つゞいてその裏面及び第十七張表面に奥書あり。次に第十七張裏面に「梵灯近年隨分付たる連誦を仙洞へ御點被申候之處加様に被仰出候也同長點二句候 應永廿二年二月日」とあり。即ちこれより以下は梵灯連誦合の部にして、第十八張より第二十三張に至る間に十五番の連誦を載せ、續いて第二十四張表面より裏面にかけて寶徳三年及び四年の奥書あり。次に文字なき一張あり（第二十五張）その裏面の汚損せるを以て觀れば、もとの表紙なりしこと知らる。

この本書寫の年代は、知連抄の最後に「寶徳第三南呂上句之比書寫之了」とあれば、寶徳三年八月の書寫なるが如しと雖、梵灯連誦の終に「本云寶徳三年南呂六日書寫畢」とありて、その後更に「皆寶徳第四孟夏下句之比令書寫者也」云々とあれば、寶徳三年八月云々は書寫せし原本にありしをそのまま傳へたるものにして、この本は、寶徳四年四月下旬の書寫となすべく、紙質書風等、正に當時のものと認めらる。而して、この本は、もとの表紙の上の文字より本文奥書にいたるまで全部一筆にして、處々行間に加へたる私案の類も皆同筆なり。文字はすべて墨書せるが、各條の最初の「一」の字の上に加へたる點と、處々語句の最初の文字の右肩に加へたる斜線（合點符）のみは朱書なり。

知連抄は、從來世に注意せられざりし爲にや、その名だに傳はらざりしを、近年にいたりて福井久藏氏、「二條良基を中心としたる連歌道の建立」と題する論文（國語と國文學昭和三年九月號所載）に於て、良基の著に知連抄ある事を發表せられ、ついで同氏の著連歌の史的研究前編に圖書寮御藏本と京都帝國大學所藏本とを紹介せられてより始めて世に知らるゝに至りしものなり。この他になほ東北帝國大學に一本あり。知連抄の名を有せる本の現今までに知られたるものは以上の三種に過ぎず。その中京都帝國大學の本は、「智連集并初心書」と題する寫本一冊（平松家舊藏）にして上下二卷にわかれ、上卷には連歌の三儀五躰を説き、終に

右此大事者二條殿より周阿法師申下西國下向之時雖所持九州者留す歸洛せし也周防國ニ一本書留也二人と相傳させへからすされとも家之口傳にも見えす愚身初而三儀五躰お相傳侍也

とあり、下卷は救濟周阿等の近來の連歌の風躰を論じ、大原野千句の時の去嫌の注文を載せ、病の事、五韻連聲相通の事其他を説き、終に
此本不堪として不可見之候特他儀努々不可有之者也

とあり、最後に宗祇作初心書を附せり。東北帝國大學本は知連抄と題する寫本一冊（江戸時代の寫本）にして、その内容は京都帝國大學本の上巻に相當し、語句は異同少からざれども、大體相類似し、終の記文も

右此本者二條殿より坂之周阿法師下向之時所持ことすと云二但此本九州ニ不留周防國ニ一本書留也相構而々二人共相傳すへからす終ニ未沙汰なしされは家ノノの相傳ニも不見明愚身始て三儀五躰をしるし侍る也以後ニ周阿か本を召せて二條殿にて御一覽候然者千金莫傳可秘々者也

とありて最後の部分の外は大概一致す。猶この本には、最後に宗祇の執筆の事を附載せり。圖書寮本は、京都帝國大學本の下巻に相當し、その内容は大體之に同じけれども、語句は大に異なる所あり、又京都帝大本の最後にある「連哥に付所にかはる所あり」及び「發句切字事」の二條のみこれには全く無し。

かくの如くなれば、知連抄の完本は恐らくは京都帝國大學本のみにして、圖書寮本も東北帝國大學本も、共に各その一半を存するに過ぎざるものならむ。然れども、京都帝國大學本の書寫年代新しく（江戸中期を溯るものにあらず）轉寫を経て誤脱多く、殆ど解すべからざる箇所少からざるに對して、圖書寮本は、良基の在世中なる嘉慶元年に聖護院門跡（後光嚴院の御子覺増か）に書き進ぜし本より出でて、永享十年及び寶徳三年の轉寫を経て寶徳四年に書寫せられたるものなれば、その傳來明らかに、年代亦古く、隨つて轉寫の誤も少かるべければ、憑據となすに足れり。しかのみならず、その奥書によりて、この書撰述の由來と年時とを知り得るが如き、最も貴ぶべし。

又圖書寮本は、知連抄としては後半のみに止まれど、學問上の價値はこの後半に多し。即ちここに載するところは多岐にして、當時の連歌道の實際を告ぐる點少からずして、連歌史上に新資料を供するものといふべく、殊に、ここに載する大原野千句の時の注文は、應安新式の應用にして、彼の新式の實物の見在せざる今の世に於いて、その面目を窺ふべき唯一の資料たり。又その五韻連聲、五韻相通の説の如きは、連歌道の實地については何の效もなき言なれども、ここに載せたる五十音圖と共に國語學史の新資料として價値少からざるものなりとす。

圖書寮本の終に附載せる梵燈連誦合は、當時、世一の先達の名を得し朝山梵燈庵の連歌を左右に番へて、應永二十二年に上皇の御點を申請け、上皇之に點と評語とを加へ給ひたるものにして、未だ他に所見なきものなり。

近年、連歌の研究漸く緒に就かんとするに當り、連歌道の祖師ともいふべき良基の未知の著作の發見せらるゝもの一二に止まらざるは甚慶すべき事にして、曩に良基の連理秘抄を複製してはじめて世に紹介したる本會が、特に允許を蒙りて、近年發見せられて未だ刊行せられたる事なきこの書を、はじめて撮影印行する事を得たるは、本會の光榮とする所なり。たゞ之を複製するに當り、紙幅の都合上、少しく縮寫せざるを得ざりしは聊遺憾なきにしもあらざれども、研究上には多くの支障なかるべきなり。

昭和七年六月六日

橋 本 進 吉

昭和七年六月廿五日印刷
昭和七年六月廿八日發行

(非賣品)

發行兼印刷者 古典保存會

東京市下谷區上野公園東園

七條

右代表者

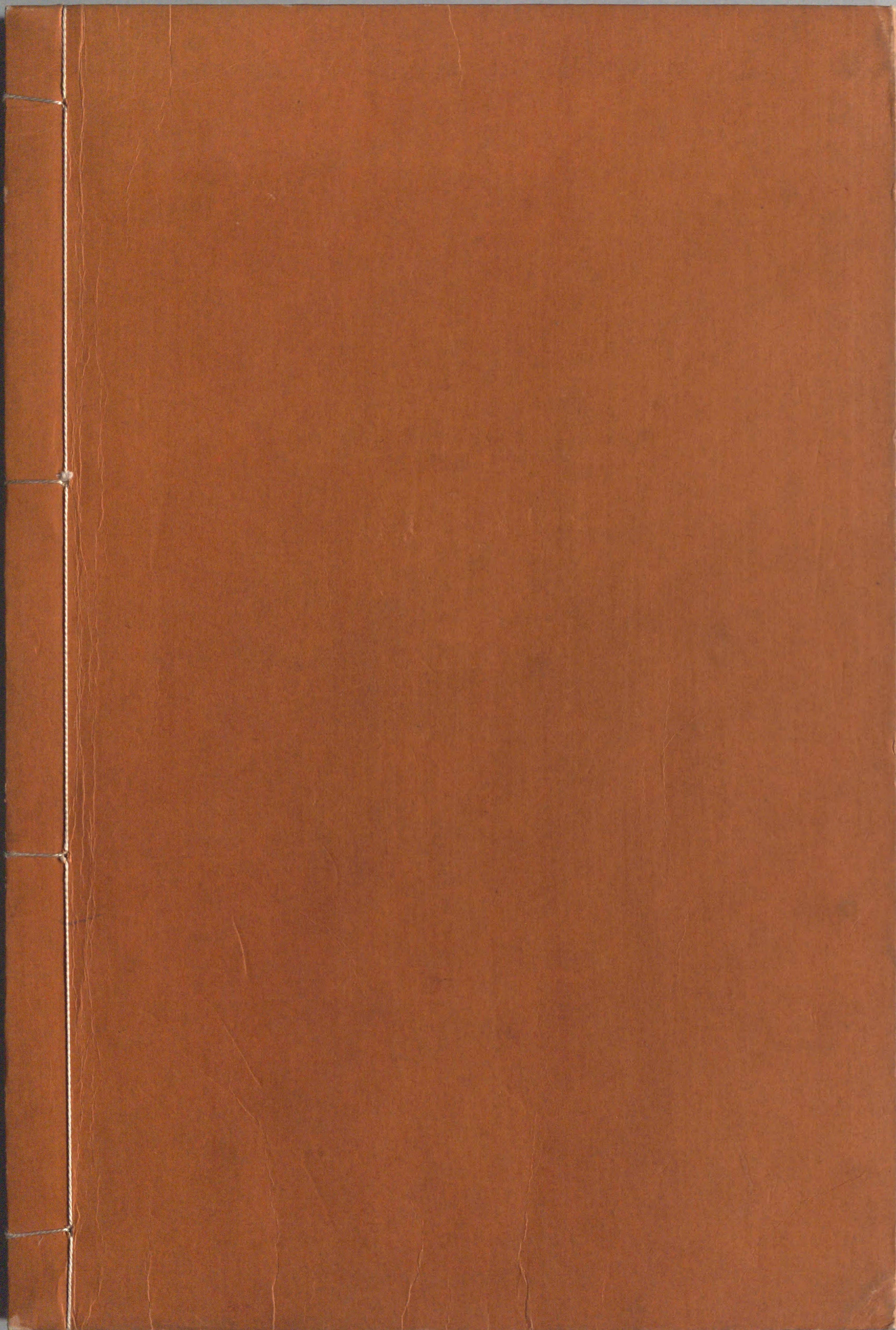
愷

印刷所 金屬版印刷所

東京市神田區花房町五番地

古典保存會事務所

電話下谷六七八八番
振替口座東京四四九四八番

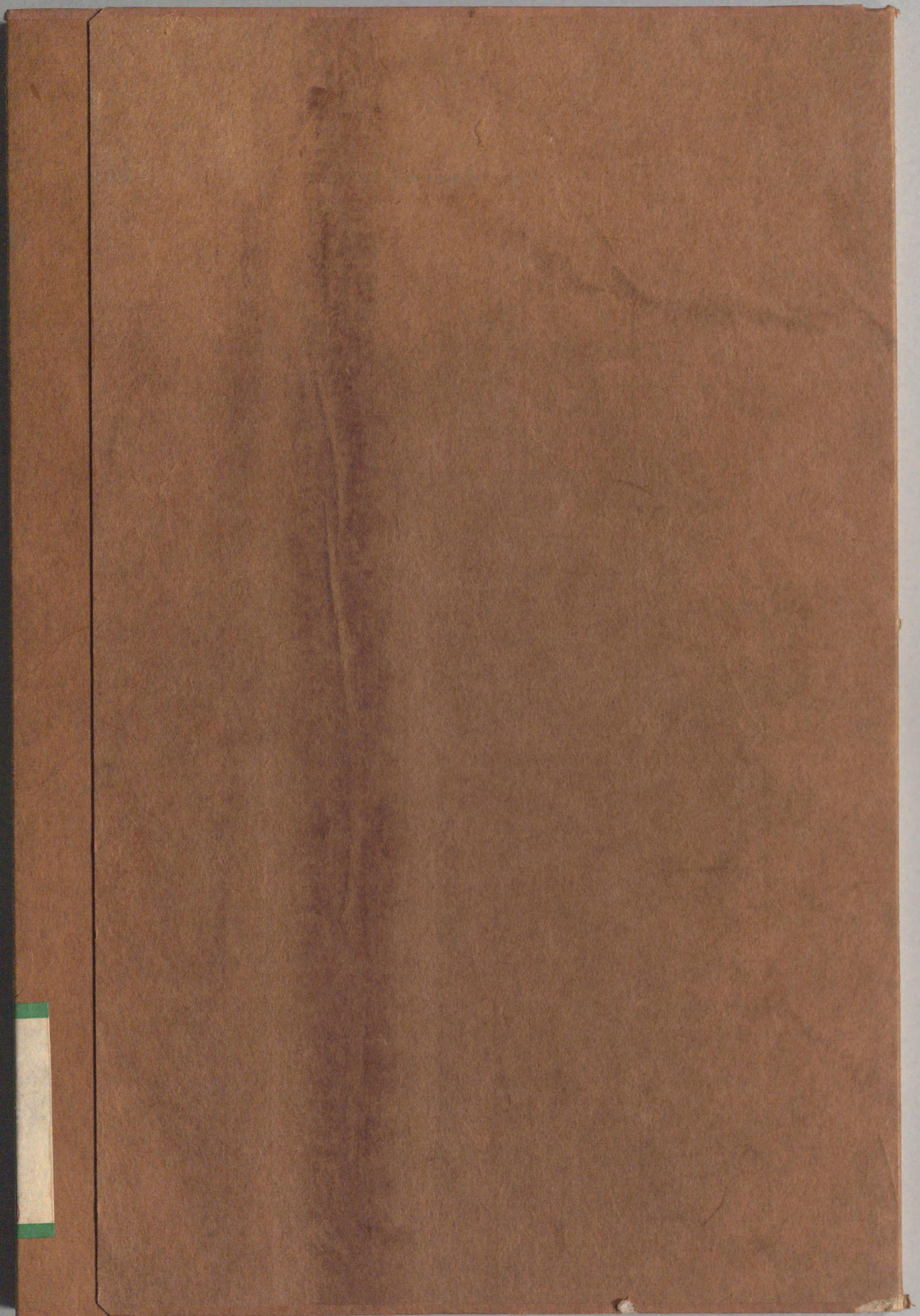


911.2
N872t2



00216543

知連抄并梵灯連哥

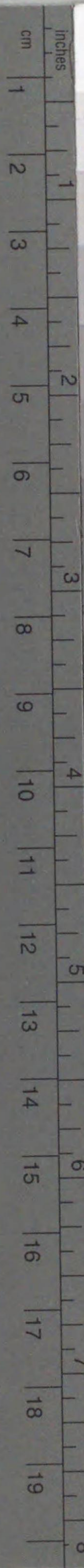
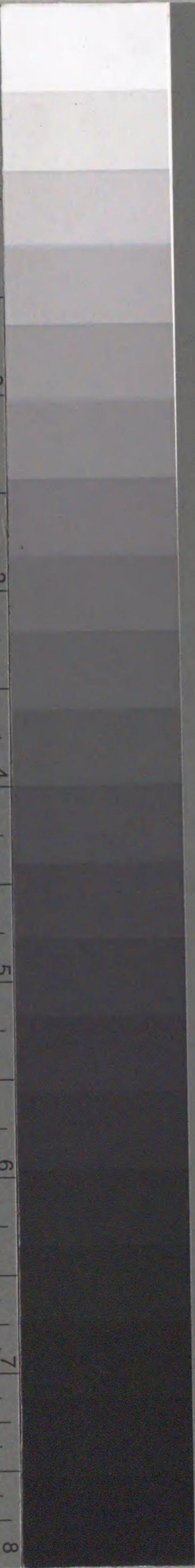


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

